

熱中症予防および所在不明高齢者への支援を求める陳情

(福祉健康委員会付託)

受理番号 第124号 受理年月日 平成22年11月24日
付託年月日 平成22年11月30日
陳情者

陳情原文 2010年の夏は、気象庁が統計を取り始めて以来、一番暑い夏となりました。そのもとで、都内23区では136人が熱中症で亡くなり、全国でも500人をこえる犠牲者が出て、そのほとんどが高齢者といわれています。

しかも熱中症で亡くなった人の多くは、室内でクーラーもないか、あっても故障していたり、電気代の節約のためつけていなかった人も多かったと報道されています。

政府は、生活保護世帯の夏季加算を検討すると報道されていますが、すでに亜熱帯といわれるような日本での夏場のクーラーの設置は、生存にかかわる最低限度の保障です。

また、この夏大きな問題となったいわゆる「消えた高齢者」の問題は、根底に貧困問題があり、社会保障制度のシステムが問われる事態となっています。高齢者の所在の確認は、自治体として果たすべき最小限度の責任であり、高齢者福祉の増進を図る上で土台となるものです。

以上、次の2点について陳情いたします。

記

- 1 夏場はすでに亜熱帯といわれる気候のもと、熱中症を予防するため、クーラーの設置は生存のための保障であり、生活保護への夏季加算をはじめ、低所得者へのクーラー設置の補助を国に求めるため意見書を提出してください。
- 2 江戸川区において所在不明の高齢者を一人も出さないために、区として少なくとも75歳以上の高齢者全員の所在を確認し、高齢者福祉を一層増進させてください。